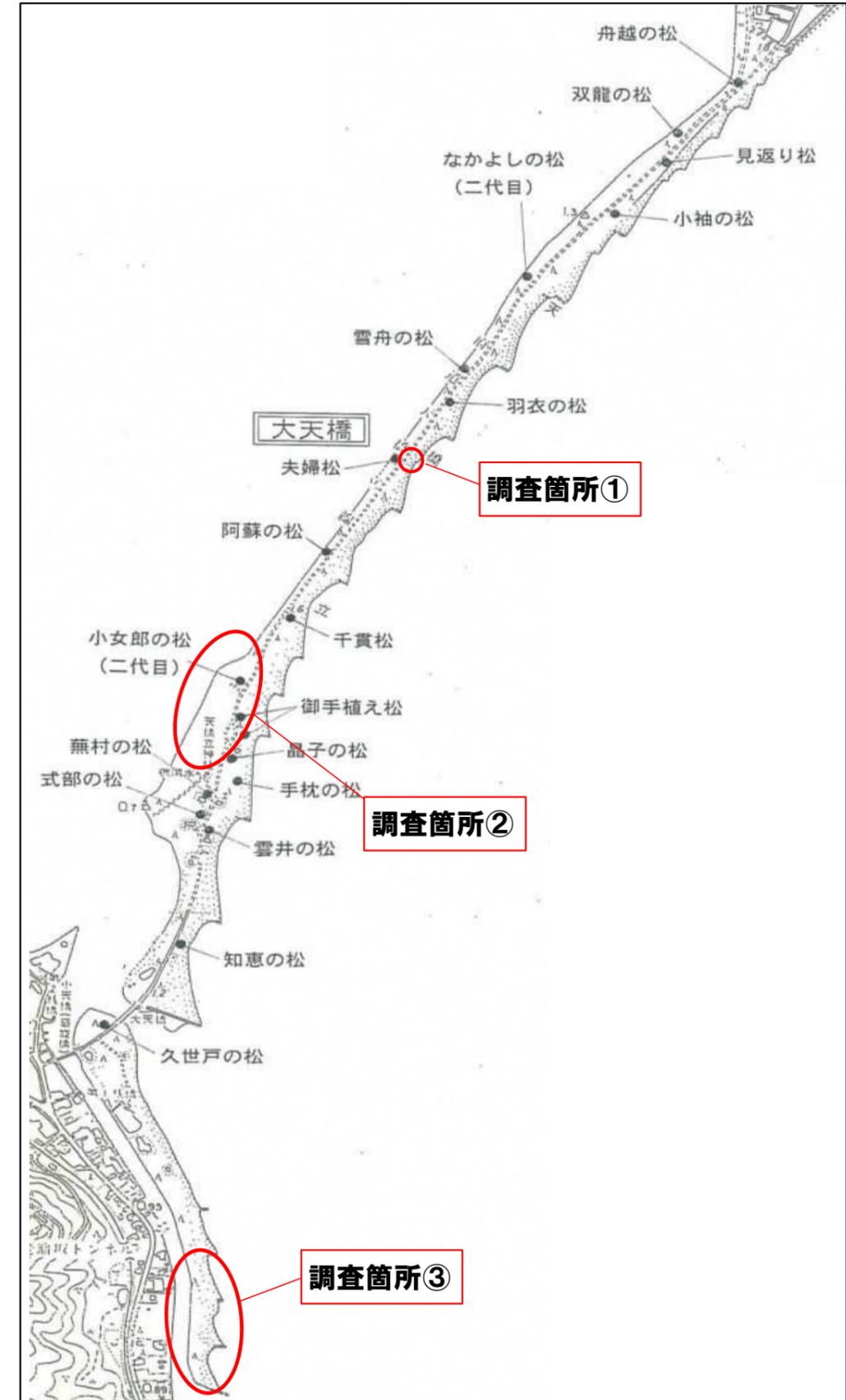


令和5年度

第1回天橋立公園松並木景観保全委員会 現地調査資料

箇所	内容
調査箇所①	マツ補植箇所（補植マツ間伐検討箇所）
調査箇所②	天橋立神社周辺（広葉樹一次伐採実施箇所、補植マツ間伐検討箇所）
調査箇所③	コドラート Q8 付近（腐植層除去実施箇所、マツ間伐実施箇所）

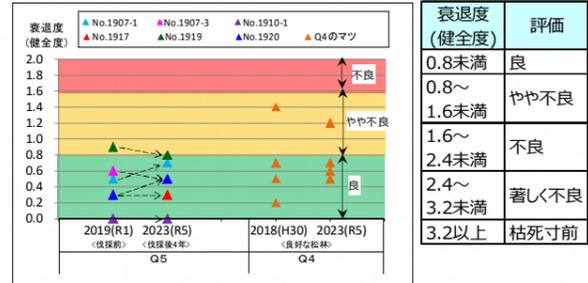
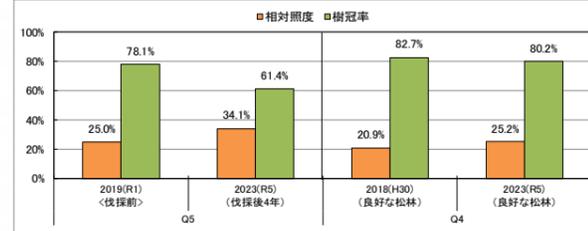


調査箇所① マツ補植箇所（補植マツ間伐検討箇所）

【会議資料抜粋】

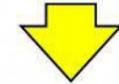
Q5：腐植層除去とマツの補植実施箇所を含む

- 広葉樹伐採により光環境が向上し、「良好な松林」（Q4）よりも明るい環境である。
- マツの衰退度（健全度）に変化は見られない。

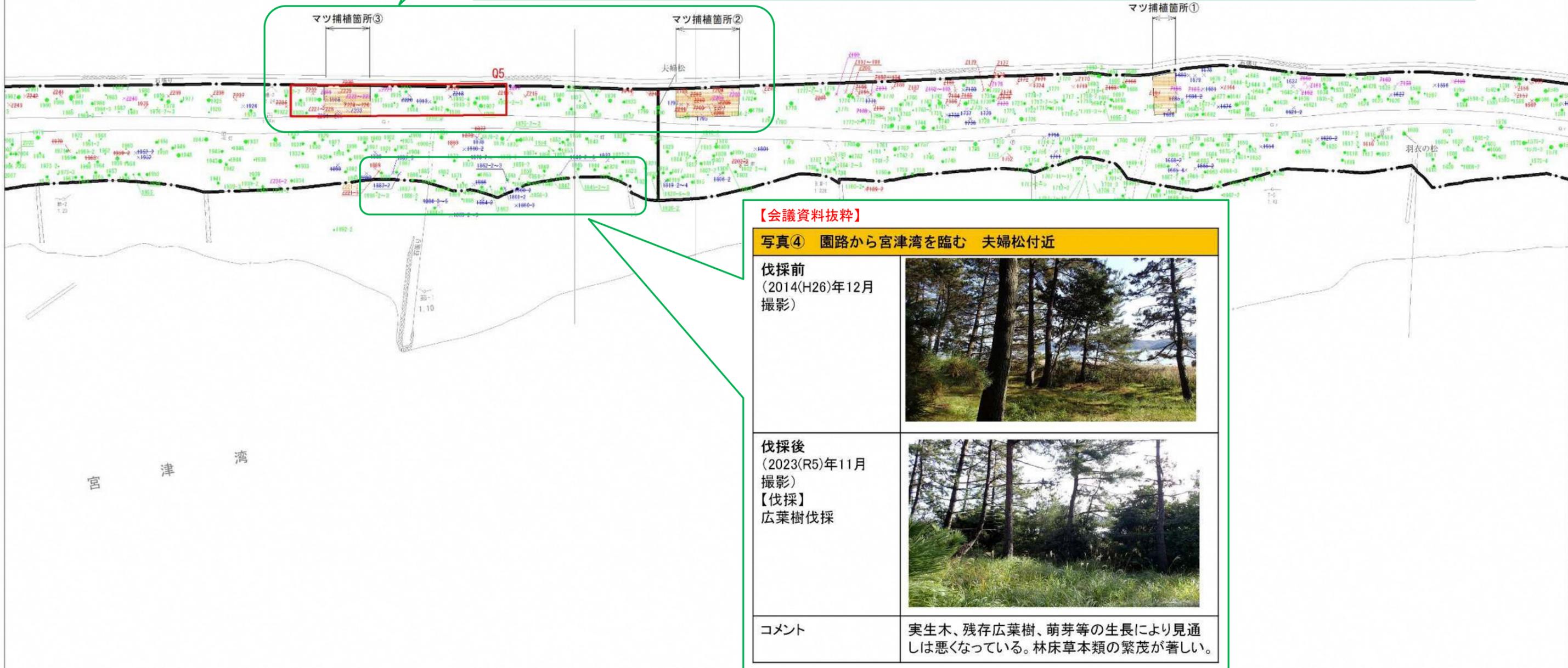


《補植マツの評価》

- 補植マツは概ね順調に生育している。しかし、維持管理が不十分であるため、セイタカアワダチソウやヨモギ、クズ等の草本類に被圧<sup>※8</sup>されている。また、過年度に伐採した広葉樹では、萌芽の生長が見られる。
- 樹高が低く下枝が張った、枝張りのしっかりした林分<sup>※9</sup>にしていくためには、計画的に密度管理を行い、林床の手入れを励行することが必要である。



補植マツ管理計画の策定



【会議資料抜粋】

写真④ 園路から宮津湾を臨む 夫婦松付近

伐採前  
(2014(H26)年12月  
撮影)



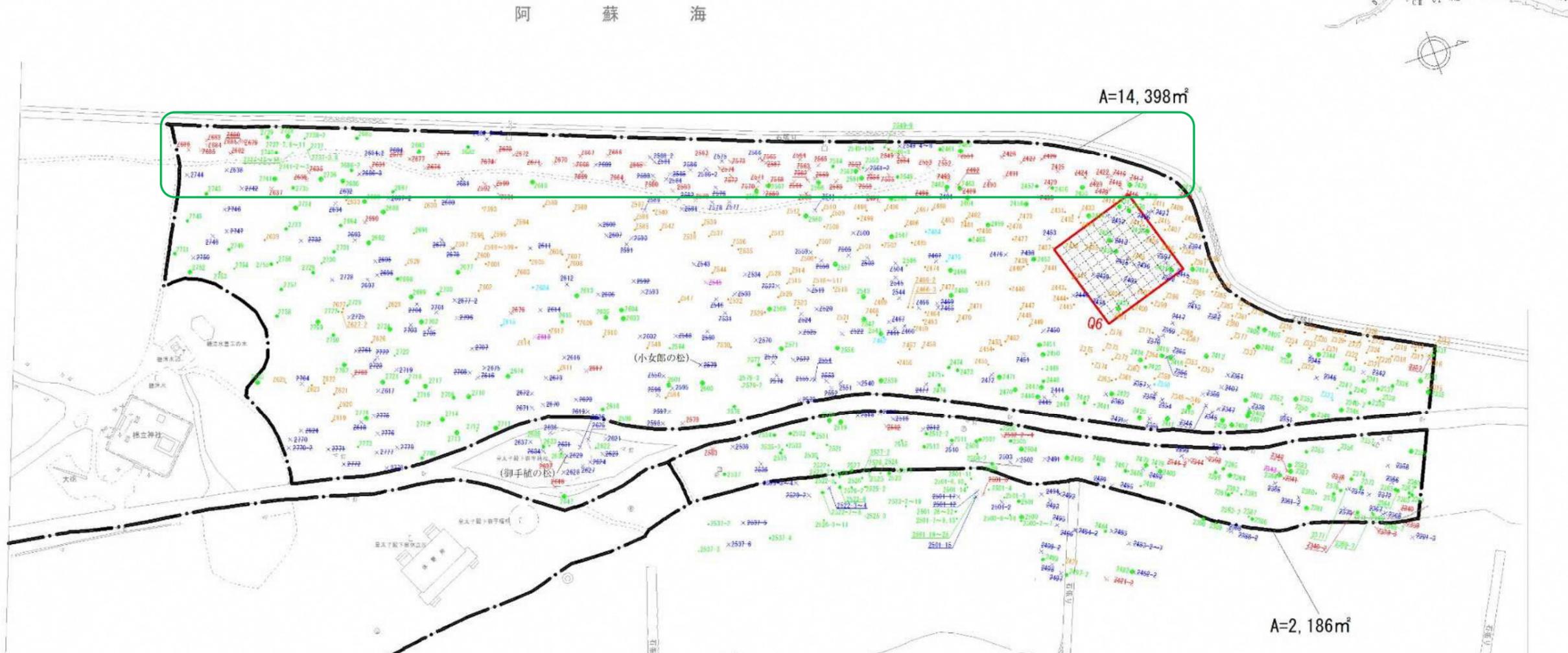
伐採後  
(2023(R5)年11月  
撮影)  
【伐採】  
広葉樹伐採



コメント

実生木、残存広葉樹、萌芽等の生長により見通しは悪くなっている。林床草本類の繁茂が著しい。

調査箇所② 天橋立神社周辺（広葉樹一次伐採実施箇所、補植マツ間伐検討箇所）



【会議資料抜粋】

写真① 園内から阿蘇海方面を臨む マツ補植A-VII付近

伐採前  
(2014(H26)年12月  
撮影)



伐採後  
(2023(R5)年2月  
撮影)  
【伐採】  
広葉樹伐採

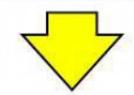


コメント

全体に見通しが良くなっている。

《補植マツの評価》

- 補植マツは概ね順調に生育している。しかし、維持管理が不十分であるため、セイタカアワダチソウやヨモギ、クズ等の草本類に被圧<sup>※8)</sup>されている。また、過年度に伐採した広葉樹では、萌芽の生長が見られる。
- 樹高が低く下枝が張った、枝張りのしっかりした林分<sup>※9)</sup>にしていくためには、計画的に密度管理を行い、林床の手入れを励行することが必要である。



補植マツ管理計画の策定

補植箇所A-VIIエリア



種別	樹木の分類
○	10m以下の松
●	10m以上の松
○	10m以下の広葉樹
●	10m以上の広葉樹
○	10m以上の雑草
×	伐採された樹木
×	10m以下の11.7m以上の樹木
×	10m以上の11.7m以上の樹木
×	10m以上の樹木、伐採された樹木

※10cm未満の広葉樹は調査対象外

大天橋  
松 : 2330~2780番台  
広葉樹 : 2313~2686

公園名	天橋立公園		
図面名	樹木位置図-A VII・A VIII		
年月日	平成25年1月		
尺度	1:500	図面番号	12葉之内 7
事業者	京都府丹後土木事務所		

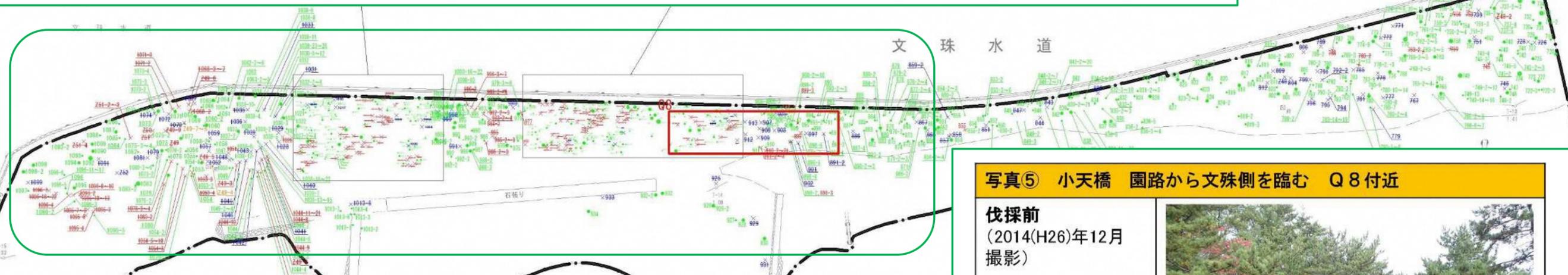
調査箇所③ コドラートQ8付近（腐植層除去実施箇所、マツ間伐実施箇所）

【会議資料抜粋】

- A-VIIエリアでは、2019(令和元)年と2020(令和2)年に腐植層除去を行い、マツ苗を補植
- その他、広葉樹伐採で大きな空間が生じた箇所（右図①～④）でも、腐植層除去とマツ苗の補植を実施
- 2022(令和4)年に小天橋において腐植層（t=5～10cm,約3,000m<sup>2</sup>）の除去を実施



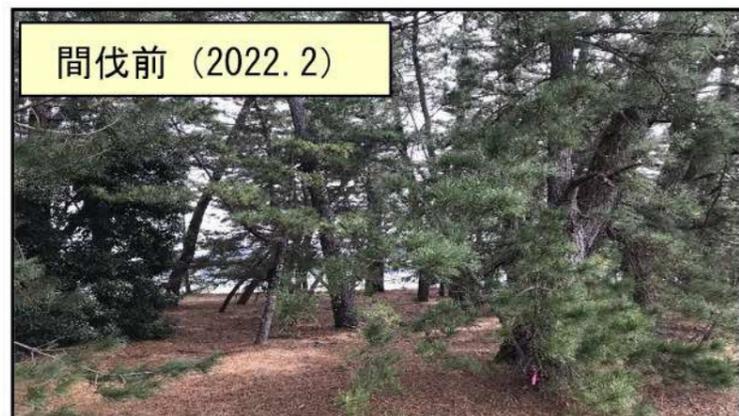
小天橋



【会議資料抜粋】

- 大天橋では、枯損木を中心に154本のマツを伐採
- 小天橋では、697本のマツを間伐

《マツの間伐の例（D）》



間伐前（2022.2）



間伐後（2023.2）

写真⑤ 小天橋 園路から文殊側を臨む Q8付近

伐採前  
(2014(H26)年12月  
撮影)



伐採後  
(2023(R5)年11月  
撮影)  
【伐採】  
マツ間伐



コメント

全体に見通しが良くなっている。